

ピグリア

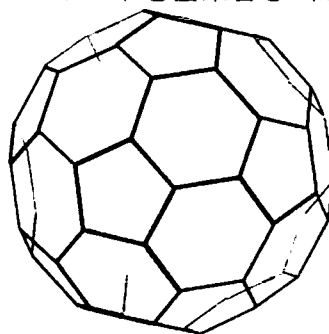
発行：福島工業高等専門学校
いわき市平上荒川字長尾30

編集：図書館報編集委員会

探究心を大切に

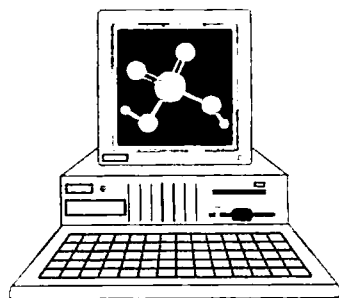
IT産業が活性化され、多くの情報が流れている中で私たちは生活しています。今では、欲しい情報は簡単に得ることができますが、これらの情報を整理して保存することは、あまりやられていないと思います。情報を整理することによって、世の中の動きが理解でき、自分のなすべき仕事や進むべき道が開けてきます。毎日の生活の中で、印象に残ったことを整理して、日記に書き留めておくことも大切になります。学生の皆さんは、意識的に取り組んでみてください。

最近の学生は、作文やレポートを書くことが不得意で、実験のレポートを箇条書き（短文等）で、表現していることが多くなりました。また、教科書や辞典の文章を、そのまま書き写して来ることも多く見られます。レポートでは、実験の結果からどんなことが考えられるか。文献値とどのように異なり、その異なる理由を深く考察して見る必要があります。また、授業で得た知識と参考書や辞書類から得られた情報を整理し、実験結果と結びつけることによって、専門科目への興味が湧いてくることが多く、勉学意欲が引き立てられます。しかし、多くの学生は簡単な感想文で終わってしまうため、レポートの提出を負担に感じている学生が多いことは残念です。



図書館は放課後20時まで開館しており、また土曜日にも、9時から16時まで開館しています。このように、恵まれた環境を最大限に利用する学生が多くなるのが、学生自身の基礎的知識の習得と能力の開発へと発展することになります。また、多くの書籍を読むことによって表現力が養われ、文章を書くことにも抵抗がなくなります。「図書館にどれだけの学生が集まっているか」によって、その学校の学生の資質がわかると言われていています。ぜひ、図書館に足を向けて欲しいものです。

引地 宏（物質工学科 学科長）



目次

巻頭言	・・・1	図書館の利用状況など	・・・ 11
新任教官が勧める本	・・・2	図書館を便利に（2）	・・・ 12
“ほん”の紹介（1年生）	・・・5	図書館からのお知らせ	・・・ 14

私が勧める本

松田 智

福島高専の学生の皆さん、小職はコミュニケーション情報学科の松田と申します。小職は総合商社で、途上国のインフラ・プロジェクトのプロジェクトファイナンスに関わる仕事をしてまいりました。特に世銀の資金を如何に途上国の民間インフラ・プロジェクトに活用できるかに就いて、着目してきました。その立場からエマージング・マーケットをみると、将来は先進国より、成長率が高く、電力、水道、道路などのインフラ需要が大きい事が期待されます。これらのインフラプロジェクトは資金規模も大きく、リスクも高いが、うまく事業が成功すれば、高収益も期待できます。従いまして、世界中の一流多国籍企業がこのマーケットを虎視眈々と狙っておるわけです。日本の企業も総合商社をはじめとした多国籍企業がこのマーケットに参戦し、善戦していると言って良いでしょう。この分野の研究書は実際にプロジェクト・ファイナンスに参画したことがないと分かり難い分野でもあり、学者ではなく、実務家の頭の中に断片的に蓄積されているに過ぎなかったのが実情でありました。しかしながら、この場で皆さんにご紹介する「国際プロジェクト・ビジネス」という本はこのインフラ・プロジェクトの分野で、実務経験のある学者がはじめて体系化した本といえます。この分野は技術者がグローバルに活躍できる局面が多々ありますので、是非一読をお勧め致します。

では次に本書「国際プロジェクト・ビジネス」(斎藤祥男・絹巻康史 編)の概要に就いて触れたいと思います。本書は、ビジネスとしての国際プロジェクトの企画・立案から成約・履行にいたるまでの一連のプロセスを学問的および企業における実務的な観点から分析・考察したものであります。編著者を中心とする執筆者は、研究会を組織し、数年にわたり本書の内容となるべき研究を重ねてきたが、その成果が凝縮されたのが、この書物であります。執筆者は、いずれも国際プロジェクトに関連した日本有数の一流企業に勤務していた経験があり、いわばこの道の猛者揃いではありますが、とりわけ、本書の価値を高めるであろう一つの要因として、国際プロジェクトを推進し、実行する具体的手順をこれほど詳細かつ体系的に述べた類書が、極めて少ないことがあげられます。総合商社の社内には、プロジェクト・ファイナンスについての詳しい社員向け手引書が存在しており、また、かつて日本興業銀行(現みずほフィナンシャル・グループ)の友人がプロジェクト・ファイナンスの解説書を出版したのを読んだ記憶はありますが、本格的な研究書は、殆どなかったように思われます。

また、小職の商社での経験から言えば、現在の大企業においては、業務の分業体制が極度に進んでおり、このため実務家は、ある狭い分野については良く知っているが、他の分野は全く知らないことが多いと思われまます。わかりやすくいえば、貿易商社に勤務していたからといって、契約から船積み、代金決済にいたるまで全部知っているわけではないのです。商品知識についても商社ではいわゆる「背番号制」といって、入社以来、特定の商品分野に配属され、その分野の専門的商品知識しか知らないのが通常であります。したがって、実務家が貿易業務全般を学生に教えるということになると、自分の知らない部分について、努力して体系的に勉強する必要があります。

ところが、本書においては、若干のばらつきがありますが、各章が、その分野を熟知している専門家によって執筆されているため、非常にレベルの高い内容となっています。結論として、本書は実務家から見て、精度が高いもので、国際プロジェクト・ビジネスのバイブルたりえると思われまますので、学生の皆さんも日本の多国籍企業がグローバルマーケットで如何にして入札を勝ち得ているのかについての醍醐味を味わっていただきたいと思います。

(コミュニケーション情報学科 教官)

伊藤正義

年齢とともに読む本がかわり、最近では種々雑多な実用書(?)、情報誌しか読む機会がなくなりました。自己責任ですが余裕を持ってない生活をしている結果です。今皆さんに紹介できる本は正直思い当たりません。そこでここでは私が16~20歳の頃に読んだ印象が強かった本ということで紹介します。時代遅れかもしれませんが、せつかく原稿書きをしたのですから、この夏休みにどなたか読んでみてください。

“デミアン”、ドイツの詩人、ヘルマン・ヘッセの小説である。最初に読んだ彼の作品で、それからヘッセには興味を持ち訳本の蒐集を始めた。春の嵐、知と愛、車輪の下、内面への道、詩集類、等々である。日本ヘッセ研究会なるものがあって参加もした。原本を読もうと思いつつもそれは実現されていない。その後、化学を始めてから約30年近くになるが、一度たりとも読み直したことはない。引越しは何度かしたが、それらはいつも書棚の一番いい場所に収まっている。老後あるいは時間に余裕ができたときにもう一度読んでみたいと思っているが、私の中ではすでに風化してしまい、思い出だけなのかもしれない。しかしとにかくこれらの本だけは大事にとってある。

その他、ヘッセ以外の本で記憶に残っているのも何冊かありますが、印象が薄い。専門書(教科書)は我慢をして読むことが多かった。カラー図が多く、字数の少ない、わかりやすい教科書があればいいのだが、そうもいかず、やはり工夫して読むしかないようである。これまで知らなかった“原子・分子”、“土木・建築”、“機械”、あるいは“電気”の世界へ踏み込むのだから。苦勞してなにかが解ったときの興奮、満足感、ひとつやふたつ経験あるでしょう。ないとしたら残念です。



「未知の世界との遭遇」、考え方で少しは楽しくなるのでは。

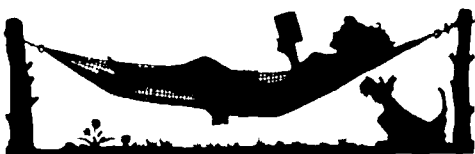
パソコンで読書という時代が始まるのかもしれないが、じっくりと周囲の自然環境を感じながら本を手にして読むというのもいいと思います。皆さん、この夏休み、たまには読書をして、自分の青春の一冊を見つけてください。

(物質工学科 教官)

ヘルマン・ヘッセ(1877-1962) ドイツ出身(後にスイス国籍)のノーベル賞作家。

『車輪の下』、『デミアン』、『シッダールタ』などにより広く各国でその名を知られています。

日本でも、早くは明治末から大正期にかけての文芸雑誌『スバル』がヘッセを紹介して以来、深い思索に裏打ちされた瑞々しい作品が、今日に至っても多くの人々に親しまれ続けています。



お薦めの本

—私を図書館に連れてって—

渡部 順一

私は、本を読むのが非常に好きです。1年に300冊を超える本を読んでいた時期も何年かありました。1日1冊と決めて、小説、ノンフィクションなど興味の引いた分野の本を次から次と読んでいました。

最近はずすがに量は減っています。それでも、様々なものを読むように心がけています。興味のあるところを拾い読みしているのは、新聞、雑誌、報告書、学会誌、法令解説書等です。また、授業の準備、あるいは論文執筆等のために読んでいるのは、専門書、論文、特許明細書等です。

こうしたこともあって、図書館は頻繁に利用しています。本校の図書館には出来れば1日3回は行くようにしています。また、いわき市へ着て間もないので休日はいわき市の観光めぐりをしているのですが、行き先の近くに図書館（いわきには図書館が6つあるのを知っていますか）があれば、かならず行くようにもしています。

さて、みなさんにお薦めする本です。経営やベンチャービジネスについて関心のある学生であれば、読んでいただきたい本をご紹介します。なかには、ちょっとした辞書より厚い本もあり、なかなか読み応えがあります。

まず、拙著『技術開発型中小企業の経営戦略』をお薦めします？中小企業の技術開発戦略を、産学官及び地域とのネットワークから捉えた好著です？本校の図書館にありますので、是非読んでみて下さい。そのうえで、批判的にご検討ください。

プレビューが終わったところで、本題に入ります。

私の専門は「経営戦略論」であり、そのなかで、技術と経営の係わりに深い関心があります。この分野は、技術経営として最近注目されるようになってきています。その入門書として、放送大学教材の亀岡秋男、古川公成編著『イノベーション経営』（放送大学教育振興会、2001年）をお薦めします。企業経営のなかで、技術の重要性が増していることについて、詳しく解説しています。

次に、竹田和彦『特許の知識（第6版）』（ダイヤモンド社、1999年）です。技術と切っても切り離せない特許について、日本化薬の経営者（元社長）と弁理士の両方の立場から解説した本です。

最後に、経営戦略論と言えば、マイケル・E・ポーターです。ダイヤモンド社から翻訳として『新訂 競争の戦略』（1995年、初出1980年）、『競争優位の戦略』（1985年）、『国の競争優位（上・下）』（1992年）が出版されています。それぞれ読んでみると眠くなりますし、枕にもつかえるので、癒し系の本としても、最適だと信じています???

ビジネスの雑誌、本も増えていますので、是非図書館に足をお運びください。

（コミュニケーション情報学科 教官）



技術開発型中小企業の経営戦略（現在、図書登録手続き中です。閲覧はできます。）

1年生が勧める本のコーナー

今回は、1年生に好きな本について100字以内で紹介してもらいました。どのような本を紹介してくれているのでしょうか。

期待しながら、お読み下さい。

物質工学科

阿部 豊

ダブルブリッド・II・III・IV・V 中村エリカ著
メディアワークス(文庫名:電撃文庫) この本は「片倉優樹」という二重雑種(複合雑種)を中心とした話です。ちなみに二重雑種(ダブルブリッド)とは人間とアヤカシとの間に生まれた生物です。生物好きにはいいかもしれません。

猪狩 早雅

君ならできる 小出 義雄著 幻冬舎
この本は、シドニーオリンピックで金メダルを獲得した高橋尚子選手について、監督である小出義雄さんがなぜ高橋選手は強くなったのか?などの話の他に高橋選手と小出監督の出会った頃の事も詳しく書いてある本です。

江尻ひとみ

ハリーポッターとアズカバンの囚人 J.ローリング著 松岡 佑子訳 この本は7月12日に発売するハリーポッターシリーズで3巻目の本です。全部読み終わらないと何もできなくなるのでご注意ください!!今、ブックエースで予約してます。私もしました(>0<)

小川 望

巷説百物語 京極夏彦著
考えてもいない結末や展開に夢中になってよめた。妖怪をテーマにした話が6本ぐらい入っていていずれも面白い。普通の学園ものとか推理小説とかに飽きたらぜひ読んでみてほしい。京極先生の独

特の世界は読んでみたら分かると思うが、何かひきつけるものが有ると思う。続編もでたので、厚さ4センチを二冊は大丈夫だ!という人は是非。

加藤 良美

ふたり 赤川次郎著

姉の死から始まるこの物語は、テレビでも放映された、家族愛を描いたものです。「自分らしく生きる」ということを教えてくれる、感動の1作です。

菅野 秀夫

二重螺旋の悪魔(上・下) 梅原 克文著 角川ホラー文庫 この著者のデビュー作でとても気に入っている本です。彼の作品はどれも素晴らしいので是非読んでほしいです。

工藤 雅彦

「買ってはいけない」は嘘である 日垣 隆著
文芸春秋

この本は「買ってはいけない」について書かれた本です。この本を読むと、世の中にあふれている情報を鵜呑みにしてはいけない。ということがよくわかります。だからみなさんにお勧めいたします。

倉持 祥子

「チーズはどこへ消えた」 S・ジョナサン
よくある話ですが、普段あたりまえできずいているようでそうでもないことを思い出させてくれます。生活していく中で、大切なことを教えてくれました!

黒澤 雄樹

かもめのジョナサン ? 新潮社
ジョナサンというかもめが活躍する話詳しくは読んでみて下さい。結構写真が載っていて読む以外にも楽しめます。150ページぐらいの本なので読むのが速い人はすぐ読み終わります。

近藤美弥子

星の王子様 S・ジュペリ著 岩波書店

国語の授業がきっかけでこの本を読みました。かわいい星の王子様の人との出会いがとてもおもしろいです。そして、予想もしないクライマックス。・・・これは泣けます！

佐藤 千恵

ポネット J・ドワイヨン著 角川文庫

この「ポネット」という本は、交通事故で母を失った四歳の少女ポネットを主人公に書いた話である。毎日一人で祈りながら母の帰りを待つポネットの切なさ、まだ幼いながらも死というものを必死に理解しようとするひたむきさに感動する。この本は何か考えさせられる一冊である。

柴野 恵

「ポネット」 J・ドワイヨン著 角川文庫

母が死んで信じることのできない四歳の少女は哀しみ、自分の生を、生き切ってしまうぐらいになる。そんな四歳の少女から、生きるということの素晴らしさと哀しさを、改めて知ることができるので、みんなに読んでもらいたいと思う。

鈴木 美奈

私は本を読まないで、新聞に載っていた売れている本を紹介します。S・ジョンソン著「チーズはどこへ消えた？」(扶柔社)です。これを読んだらものの考え方が少し変わった・・・と友達から聞きました。今の自分から変わりたい人にお勧めです。

鈴木 有紀

ハードル 真実と勇気の間で 青木和雄著 金の星社 この本は、1人の少年の周りで起こる様々な問題を、友達と共に解決していく話です。いじめについて考えさせられることが多いと思います。読書嫌いの私でさえ夢中になれる本です。

鈴木 大将

勧める本がありません。読んでみたい本はというと、「三国志」です。図書館にあるかもしれませんが、一応読みたい本としてこれをあげておきます。

袖野 綾子

暗記しないで化学入門 平山令明著

化学は難しいという先入観を改める表現と構成です。A先生絶賛の1冊です！！

リンカン・アメリカを変えた大統領・フリードマン著 リンカンは、貧乏に打ち勝って、アメリカ大統領にまでなった成功者として語られている。しかし、彼の本当の心はいつも大衆の側にあった・・・！！

中根 健

人間失格 太宰治著 新潮社

僕がこの本を読んだきっかけは父が薦めてきたからです。書き出しから「恥の多い人生を送ってきました」というインパクトの強い文章で始まり、終わりまで目が離せません。

長嶺 礼加

星の王子さま S・テグジュペリ著 岩波文庫

大人のための本って感じなので、とても楽しい●○●○。はじめは、よく意味がわからないが何度も読んでくうちにとても納得すると思う☆ たぶん子供のときの純粋な気持ちを思い出せると思うので、ぜひ読んでほしい☆☆☆☆

仲西 涼

ABC殺人事件 A・クリスティ著 偕成社

これは、推理小説。主人公のエルクキュール・ポワロがある殺人事件を解決していく様子が書かれている。とても興奮する本である。

根本 奈都子

「月神の統べる森で」(古代ファンタジーシリーズ) たつみや章 著 講談社 縄文から弥生へと移り変わる時代が舞台上、異文化の接点に起

きる憎悪と争い・理解と友情の芽生えを神話的構想で書いている。連作ものとして出版されており、現在3冊ほど出ている。是非とも読んでほしい作品だ。

滑川 智仁

本というものと付き合っって十数年がたちますが、僕は、いまだに本当に自分の好む本を見つけることができいていません。小説、物語、論文から、辞書まで、面白そうだなと思ったものは、だいたい読み尽くしてきてきました。ですが、本当に自分と、本と、心を結びつけることの快楽を、僕は見出すことができなないのです。そんな本が、残りの人生の間に、ひとつでも見つければいいと思います。

野村 美咲

五体不満足 乙武ひろただ

この本は乙武さんの生まれたころから現在にいたるまでの事を書かれたエッセイです。乙武さんが障害者の中でも重度の障害を持っていてながら、メディアの世界で活躍しているのは、どれも環境のおかげだということを読んて気づきました。

太 充央

少年探偵団 江戸川乱歩

僕は、ミステリーがすきなのでミステリー作家を代表する江戸川乱歩の小年探偵団の本を全部読みきりたい！！！！！！

正木 延幸

たけしくん、ハイ！ ビートたけし著 新潮社

この本は、幼い頃の北野たけしから見た一日一日の出来事において、感想を書いたもので、内容は4～5ページの短編が25集まり1冊となっています。ですので、飽きっぽい人でも1編ずつ夜寝る前などに読めば、最後まで読んでしまうと思うので是非おすすめします。あと、本文の内容はあえて書きませんので知りたい人は、この本を買ってみてください。

渡邊由岐子

ハリーポッターと賢者の石 J. ローリング著 静山社 この本は以前からいろんな友達に勧められていて、読んでみたい本の中のひとつです。



コミュニケーション情報学科

愛澤 朋美

バトルロワイアル 高見広春著 太田出版

私はこの本をみんなに読んでもらいたいと思いました。皆さんもご存知のとおり映画にもなっています。基本的に殺し合いをするという話ですが、感動的なので是非皆さんも読んでください。

青砥 美和

チーズはどこへ消えた？ S・ジョンソン著 門田美鈴訳 ストーリーはいたってシンプルなのにいつの間にかいろいろ考えさせられます。

遠藤 美佳

夢にも思わない 宮部みゆき著 中央文庫

学生の人がとっても共感できる内容で、わかりやすい本です。読書が苦手な人でも、大丈夫です。

大平 友加里

青の時代 小松江里子著

この話は、犯罪を犯して少年院に入れられた少年が、真面目で正直な弁護士や保護司との出会いによって、人を信じることを学び、立ち直っていくという話です。

岡崎 奈津美

だから、あなたも生きぬいて 大平光代著 講談社 この本は、大平さんの経験を書いたもので、どんなに辛くても生きぬけというメッセージが、元気・勇気・希望をくれます。

小川 沙織

キッチン 吉本ばなな著 角川文庫
肉親を亡くした主人公が周りの人達によって徐々に孤独な心を和ませていく。吉本ばななさんの比喩がとても綺麗で物語りに吸い込まれていくように読みました。とにかくすごくいいのでぜひ読んでみてください！

小川 拓也

十五少年漂流記 川口 顕弘著 くれよん文庫
ニュージーランドのある夜、一人の少年のいたずらで、遊び場にしていた船のロープが切れ、見知らぬ孤島に漂流してしまった！そこから十五の少年達で様々な困難を解決していく物語です！

木村 恵

すいかの匂い 江國香織 新潮文庫
11人の少女のひと夏の思い出が淡く書かれている短編集。心の中に織り込まれたそれらの思い出を背負って生きる少女達の短い夏。私達の中にも生きている感覚が思い出される本です。

国分 美穂 ハリーポッターと賢者の石・ハリーポッターと秘密の部屋 なかなか厚い本だけど、一気に読んでしまいたくなるほどハマる。夢がある。ファンタジック。さすがベストセラー。大人も子供も楽しめると思う。

坂上 英和

空想科学読本シリーズ（特に空想科学論争） 柳田 理科男ら著 アニメの世界を科学によって批判し、大人と子供たちの夢をおもしろおかしくぶち壊す本。面白くて最高。もう、病みつきになる。

佐川 夏紀

スター★ガール J・スピネッリ著 千葉茂樹 訳 理論社 誰もが共感できる物語。転校生のスターガールは不思議な女の子。でもいろいろな問題を起こして・・・、というような内容です。

佐々木 亜月

アリスの国の不思議なお料理 ジョン・フィッシャー著 文化出版局 この本は、「不思議の国のアリス」に出てくる料理を実際に作るためのレシピが36種載っています。アリスと料理が大好きな人に、おススメの本です。

佐藤 敬惇

空想科学読本シリーズ 柳田 理科男 アニメの世界を現代の科学で面白おかしく徹底的に批判する本。一回読むと止まらずに何度も読みたくなるような内容になっている。

志賀 弓枝

「チーズはどこへ消えた？(Who Moved My Cheese?)」S・ジョンソン著 門田美鈴訳 扶桑社 この本はベストセラーで、大変話題になったので読んでみたが、そんなに面白いものではない。しかしためになるので、是非読んでほしい。

丹野 千春

Colorful 森 絵都著 理論社
人は、それぞれ自分の人生を歩んでいる。でも、もし他人の人生を歩むことになったらどんな気がするんだろう？自殺した少年の人生の続きをやらされることになったら？・・・こんな話です。

土田 匡樹

ネロ（国語の教科書より） 谷川俊太郎著 東京書籍 この詩は、谷川が犬の死への悲しみとそれに負けないくらいの力強く生きる気力を対比させて書かれている。動物を飼ったことのない僕でさえも谷川の大きな悲しみを感じ取ることができた。また、その悲しみを抑えるように力強く生き

てゆこうとしている姿がすごかった。

富岡 真也

羊たちの沈黙 読んで、先がどうなるものかとドキドキできる本。心臓の弱い方は、ご遠慮ください。

富岡 冬未

いちご同盟 三田誠広著 集英社文庫

この本の主人公は当時の私と同じ年齢で私も同じ悩みをかかえていたのですごく共感しました。この本では、「生と死」について子供の立場にたって考えさせられるのでぜひ読んでください。

成田 あかね

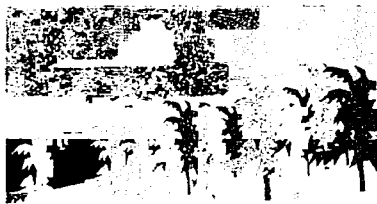
いじめ14歳のメッセージ 林 慧樹(みき)著 小学館 クラスで始まった「無視」というゲーム。それに絶えられなくなり一人の女子がとめた。しかし次の日からその子はいじめられる。最後の展開に驚いた。

新妻 佳代子

夏の庭—The Friends— 湯本香樹実著 新潮文庫 内容は少年たちが人が死ぬところを見たくて一人暮らしのおじいさんの家に行くというものです。おじいさんが死んでしまうところでは、私も泣きました。おすすめです。

西山 勲

ぼくらの七日間戦争 宗田 理著 角川文庫 中学生が親に反抗して廃ビルに立てこもる。さまざまな問題を知恵を使って解決していくという話。シリーズにもなっていて、20冊ぐらい発売中！ 中高生を中心に大人気な本だ



野中 厚見

「かげぼうしのつぶやき」 引地ユリ著

思春期という多感な時期の中、子供達は様々な問題に直面し悩み、「己」ということを私達読者に一つの問として投げかけている、作者が関った実話である。

藩 健太郎

三国志 3人の熱きおとこ漢たちの天下とりをとくとみよ！読んでてもものすごく熱くなる本です。この夏休みにひとつ読んでみてはどうでしょうか？

平賀 順香

アルジャーノンに花束を D・キイス著 早川書房 この本を読んで元気になったという話を聞いたので私も読んでみました。人間は知能ばかりではだめだ、温かい心と思いやりが大切だということをしみじみと感じました。ぜひ読んでみて下さい。

蛭田 竜一

志村正順のラジオ・デイズ 尾嶋義之著 新潮文庫 昭和 10~30 年代にかけて活躍したアナウンサーを書いたノンフィクション。当時のラジオの話などはとても面白い。読んでいるうちに声に出して読んでしまった。

松永 紫野

ハリーポッター賢者の石 この本は、字が小さくてなかなか読む気がしませんが、読みはじめると一気に読んでしまうような面白い本です。

前田 美沙子

グリーンマイル 全6巻 S・キング著 角川文庫 超泣けます。しかも結構読みやすいです映画とセットで見てください。ヒットしただけあります。私もおもわず、2巻も買ってしまいました。

三浦 未来

五体不満足 乙武洋匡 講談社乙女武さんは五体のうち四体がないけれど、毎日が楽しくて不満がないという、私たちが考えてることとは違う考えを持っていることがわかった。

三浦 由香里

ライオンと魔女 C・ルイス著 岩波少年文庫
言葉が話せる動物のいる不思議な国“ナルニア”で起こるさまざまな事件から目がはなせない！

松原 美和

舞姫通信 重松清著 新潮社版
双子の弟が自殺したのをきっかけに、「自殺」というものの意味を日常生活を通して考える主人公の物語。「生きること」の意味がわかるかも……。

村上 諒子

アミ 小さな宇宙人本 E・バリオス著、石原章二訳、徳間書店 ある小さな男の子が夏休みのバカンスに遊びに行った海で小さな宇宙人に会い、その宇宙船でいろいろな星に連れて行ってもらったりして、成長していくというものです。この物語は3部作で、この本の次に「もどってきたアミ」「アミ3度目の約束」があります。物語が進むにつれて、だんだんと内容も深いものになっていきます。とても面白いと思うので、ぜひ読んでみてほしいです。

村田 亜有美

五体不満足 乙武洋匡著
少し前にこの本を読んで、とても勇気付けられました。乙武さんの生き方に感動し、世界中の障害者の人たちに頑張って、胸を張って生きてほしいと思いました。そして、どこも不自由ではない私たちも、そんな人たちに負けないように生きていかなければならないと考えさせられる本でした。

矢澤 絵梨奈

フォレスト・ガンブ W・グルーム著 講談社
いきなりだが、私はフォレストのようになりたい。彼の、シンプルかつマイペースな生き方が私には魅力的に感じたのだ。知能指数が人並み以下でありながらも、胸を張って自分の人生を誇れるフォレスト。私はまだたったの16歳であるが、これからの人生、彼のように誇れる生き方をして生きたい。

吉川 友香

アルジャーノンに花束を D・キイス著 早川書房
幼児の知能のチャーリィと鼠のアルジャーノンが、脳の手術により親近感を抱き始めます。友情や悲しみを感じる本です。

吉田 仁美

バトル・ロワイアル 高見広春著 太田出版
「中学生が殺し合いをする」……。一見、驚きと恐怖を感じますが、生きる事の大切さと、大きな問いかけを残しています。必見！



1年生全員の原稿を掲載する予定でしたが、物質工学科とコミュニケーション情報学科の2クラスだけの掲載となってしまいました。好きな本の紹介だから強制するのもおかしいかな……としたせいかと、少し反省しています。

でもね、100字では書ききれないという反応も結構ありました。その気持ちを作品にして感想文コンクールに向けて下さい。

(当然、これも強制ではありません。)

感想文コンクールについては別ページでお知らせしています。

多数の応募をお待ちしています。

図書館の利用状況（2001年4月～6月分）

年度始めの3カ月間の集計です。図書の借り出し記録から上位5人の人の名前を掲載しました。
 (抽出条件：3ヵ月で20冊以上借りた人 と設定できそうな状態でした。)

図書の利用（貸出）が多かった人

	氏名	クラス	冊数
1	金子 由香里	物質2	27
2	田中 美菜子	建設3	25
3	斎藤 雄太	電気3	22
4	近藤 努	機械3	21
5	阿部 寿子	コミ3	20

さて、もんだいです

図書館に登録された学生数は1240名です。
 4月から6月まで1冊以上図書を借りた人は何人いる
 でしょうか？

a 140人, b 340人, c 540人, d 740人

ヒント：

借りて読もうという人は少ない？多い。

閲覧室にコピー機が置かれたことで、図書館の雰囲気が変わったという声があります。
 静かに本を読む、資料を探す 考える レポートなどの作業をする人を大切にしたいと思います。

静かな図書館の実現にご協力下さい。

STOP おしゃべりながらコピーの順番待ち

うるさいよって注意されても、静かになって言われても、5分保たないってどうしてなの？
 携帯でコピーの確認してるって どこか、おかしくない？

コピー機の使用状況（コピー機は2000年9月に閲覧室内に設置）

2001年3月までの使用枚数	37,700 枚	(2月 9,201 枚 最多)
月平均コピー数(6ヵ月の平均)	5,386 枚	(3月 1,436 枚 最少)
2001年 4月	1,693 枚	
5月	4,359 枚	
6月	7,924 枚	



もんだい2 3月のコピー枚数が少ない理由を考えてみましょう。

++ワンポイント・アドバイス++

～お得な手コピー&頭コピー～

必要な情報を見つけたら、安易にコピー機で複写するのではなく、借りて用の済む本は貸出を利用して下さい。コピー機は有料ですが、貸出はもちろん無料です。また、必要な部分をノートに書き写す「手コピー」や、閲覧室でじっくり読んで覚えてしまう「頭コピー」ももちろん無料です。こちらの方が、知識も増える最も賢い利用法かもしれませんね。(さ)

図書館を便利に(2)

～福島高専図書館を賢く利用しよう～

高木さやか

新年度が始まって3ヶ月が過ぎ、図書館も、そろそろ冷房を入れなければいけない季節がやってきました。

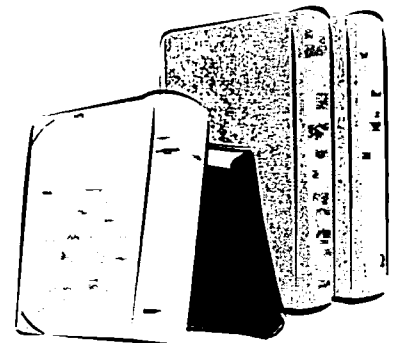
さて、この3ヶ月間に皆さんは何回図書館を利用しましたか？頻繁に出入りをした人、1度も足を踏み入れなかった人など、さまざまかと思えます。1年生や、学年が上がって初めて入館した人の中には、その利用の仕方に戸惑いを覚えた人もいるかもしれませんね。そこで、もう1度、福島高専図書館の利用の仕方を確認したいと思います。

まず、貸出についてですが、貸出には普通貸出と卒研貸出の2種類があります。普通貸出は1～5年生に共通で、卒研貸出は卒業研究に取り組む5年生のみが対象です。普通貸出を利用する際には、図書館のカウンターに借りたい本と学生証を提出してください（この場合、必ず自分の学生証を提出してください。学生証は皆さんを本人であるかどうか認識するための大切なものですから、絶対に貸借を行ってはいけません。）。カウンターで貸出の処理が済むと、1人合計3冊までを2週間借りることができます。卒研貸出を利用する際には、カウンターにその旨を申し出てください。1人合計5冊までを1ヶ月間借りることができますが、専用の用紙への記入にあわせて、指導教官の印が必要になりますので注意してください。記入が済めば、後は普通貸出と同様に、学生証と借りたい本を提出すると処理が完了します。

続いて、返却についてですが、貸出の場合と同じように借りていた本をカウンターに提出してください。ただし、この場合には学生証は必

要ありません。処理が済んだ本は、係員が再び皆さんに手渡しますので必ず所定の位置に戻してください。また、やむを得ず閉館時に返却する場合には、入口左側のブックポストを利用してください。

ここまで、福島高専図書館の利用の仕方を簡単に解説してきましたが、図書館には、ここに書いた内容と同じことが掲示してあります。ですが、図書館の基本的な利用に関するカウンターへの質問は絶えません。ですから、ここで解説する利用の仕方に、「館内の掲示物を確認する」という項目を加えたいと思います。図書館の入口とカウンターそばの掲示板にカラーのポスターで、もっと詳しい利用方法を掲示してありますので、確認してみてください。この他にも、館内の掲示物には大切な情報が載せられている場合があります。夏休みや冬休みなどの長期休業中の特別貸出などがその例です。普通貸出よりも、多く長く借りることができます。長期休業中は、閉館する日も多くなるので上手に利用したい情報です。また、「飲食厳禁」のような注意掲示もありますので、必ず従ってください。このように、図書館を上手に利用するためには、掲示物の確認は必須といえます。加えて、この「ビブリア」に目を通すこともとても有用であることは、いうまでもありませんね。



また、最近、返却の方法が少し変わったことを知っていますか？これも、館内の掲示に気を配っているとわかることのひとつです。

従来、返却の処理が済んだ本は、利用者の責任で書棚の元の位置に戻してもらうという方法をとっていました。しかし、今年度から返却処理後の本をカウンターで預かったり、閲覧室か書庫の所定の机の上に積み重ねてもらって、書棚へは係員が戻す方法を試験的に始めました。頻繁に利用している人は、その違いに気付いたことでしょうか。そして同時に疑問にも思いませんでしたか？なぜ、返却の方法が突然変わってしまったのか、と。

皆さんとしては、返却の作業が楽になって良かったと思える反面、良いことばかりではありません。この変化は、返却を皆さんに任せておけなくなってしまったという意味で、実はとても残念なことだからです。従来どおりの返却方法では、ついに蔵書の管理ができなくなってしまったのです。簡単にいえば、皆さんが適切な場所に本を戻してくれないので、整理が追いつかなくなったということです。以前は、皆さんの返却後に改めて順序を正す作業を行って、図書の正しい並びを何とか管理してきました。しかし、学生数は変わらないのに、なぜかきちんと返却されない図書は年々増え、書棚の乱れを元から絶つための最後の手段として、この方法を導入したという背景があるのです。

本来ならば、利用者の責任に任せた仕組みの方が、図書が迅速に書棚に戻り、利用者としてはメリットが大きいのですが、それぞれがいい加減な場所に戻す行為を続けていると、メリットどころではなくなってしまいます。前号のピブリアにも書きましたが、図書館の蔵書は全て「ラベル」の表示にしたがって整理されていて、そのラベルを手がかりに必要な図書を探す仕組

みになっています。ですから、その規則に従っていない図書は誰にも探すことはできません。係員でも不可能です。誰か1人がいい加減な場所に放置した瞬間に、その本は行方不明になってしまいます。この図書館の仕組みを理解していれば、いっそう図書館は利用しやすくなりますし、いい加減な返却をすることもできなくなるはずですが。常に次に利用する人のことを考えて図書を閲覧してください。そして、その中には、もちろんあなた自身も含まれていることを忘れないでください。次に同じ本を利用する際に、あなた自身がその本を見つけられない可能性も高くなってしまいます。書棚から1度でも本を取り出した際には、1呼吸おいて、今差し込もうとしている場所が正しいかどうかを確認してください。もし、違っていたら、書棚から体を1歩引いて、入れるべき場所を探してみてください。ラベルの意味を理解しているあなたならばきちんとわかるはずですが。自信のない人は、遠慮なくカウンターに尋ねてください。

今回は、福島高専図書館の基本的な利用方法を確認すること、掲示物・配布物に目を通すこと、常に本のラベルの情報を気にすることの3つの有効性を解説しましたが、これら全てが次に来館した際、便利に図書館を利用できるかの分かれ目になります。つまり、図書館の賢い利用者とは、今回の利用のことを考えて慎重に図書館を利用できる人ということになります。

在学中5年間の長期に渡って付き合いしていく図書館ですから、長期的に先を読む目を持って賢く丁寧に利用していきましょう。

(図書館非常勤職員)



図書館からのお知らせ

1. 館内蔵書の点検、整理のための閉館

8月6日(月)～8月18日(金)

上記以外は開館しています。(土日は閉館です。)

開館時間：8時30分～17時



2. 図書の特貸出について

- (1) 貸出手続き期間 7月10日(火)～夏期休業期間
- (2) 貸出期間と冊数 夏期休業期間中に限り1人5冊まで



3. 感想文コンクールについて 作品の募集

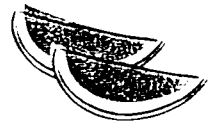
- (1) 内容など 読書感想文、本の紹介、本に対する評論文、
できれば1600字程度にまとめて下さい(最大2000字)
- (2) 募集部門 低学年の部(1～3年対象)、高学年の部(4, 5年生対象)
- (3) 提出期限 平成13年 11月末日まで
- (4) 賞品 優秀作品には図書券を贈ります。
- (5) 提出方法 電子化して提出して下さい。

電子メール tosyo@fukushima-nct.ac.jp

作品は メール本体(テキストファイル)で提出して下さい。

フロッピーの場合は、図書館事務室に提出して下さい。

優秀作品は2月発行のビブリアに掲載します。



夏休みを利用して、良い本に巡り合う、好きな本を探し出すなど、いつもとちがう時間を過ごしてみませんか。もう、本は読み尽くしたと言わずに。本棚にないだけ、気づかないだけかも。世の中にない? ほんとにすごい人なのかも? 文字の並びからどれ位世界を広られるか、見えないものが見えるように心と頭の扉を開くことが読書なのかもしれません。ところで、51,676枚のコピー用紙はどこへ行ったのでしょうか。それらの裏面はどんな使われ方をされたのでしょうか? 裏は使わなかったのかな? お願い 良い本を教えてください。こんなに役に立つ本があった。読んで良かったと思えた“その本”をご紹介下さい。(次号掲載予定です。書名、著者、出版社とコメント、よろしくお願いします。) もうすぐ蝉も鳴き始め、いつもの夏になりますね。ご自愛の程。

もんだいのこたえ b,340人、開館日が7日間だったから。説明? さて、どうしたものでしょう。(う)